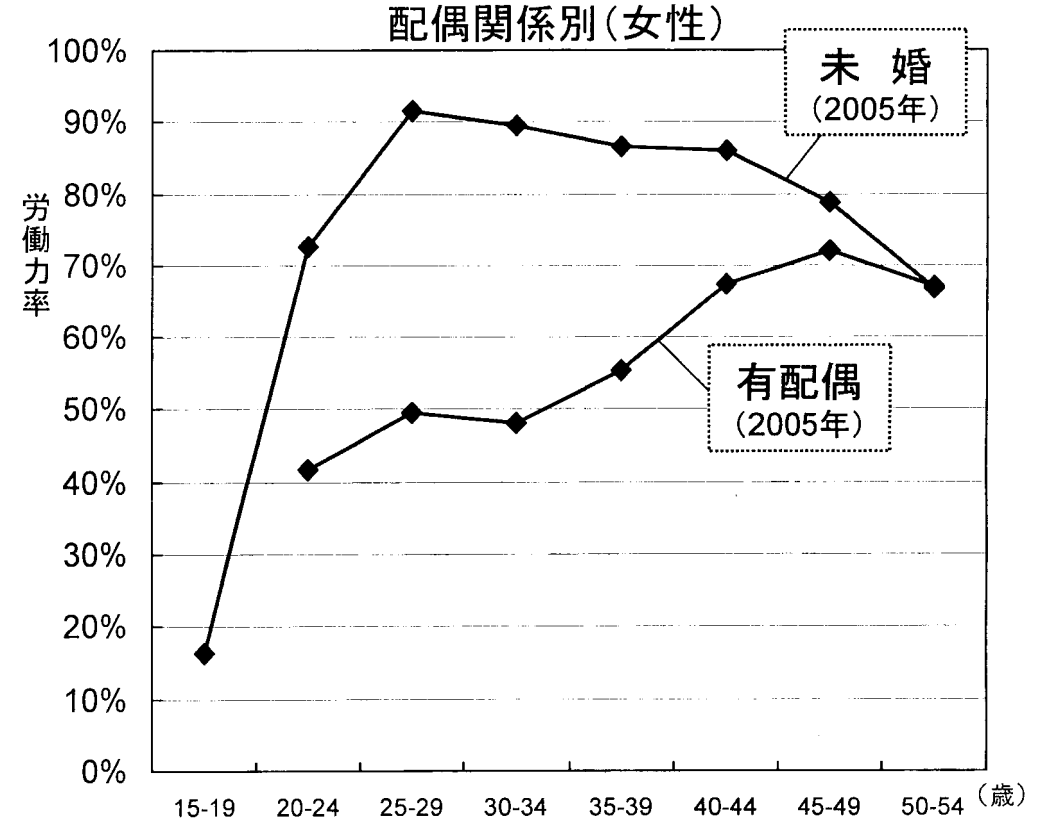
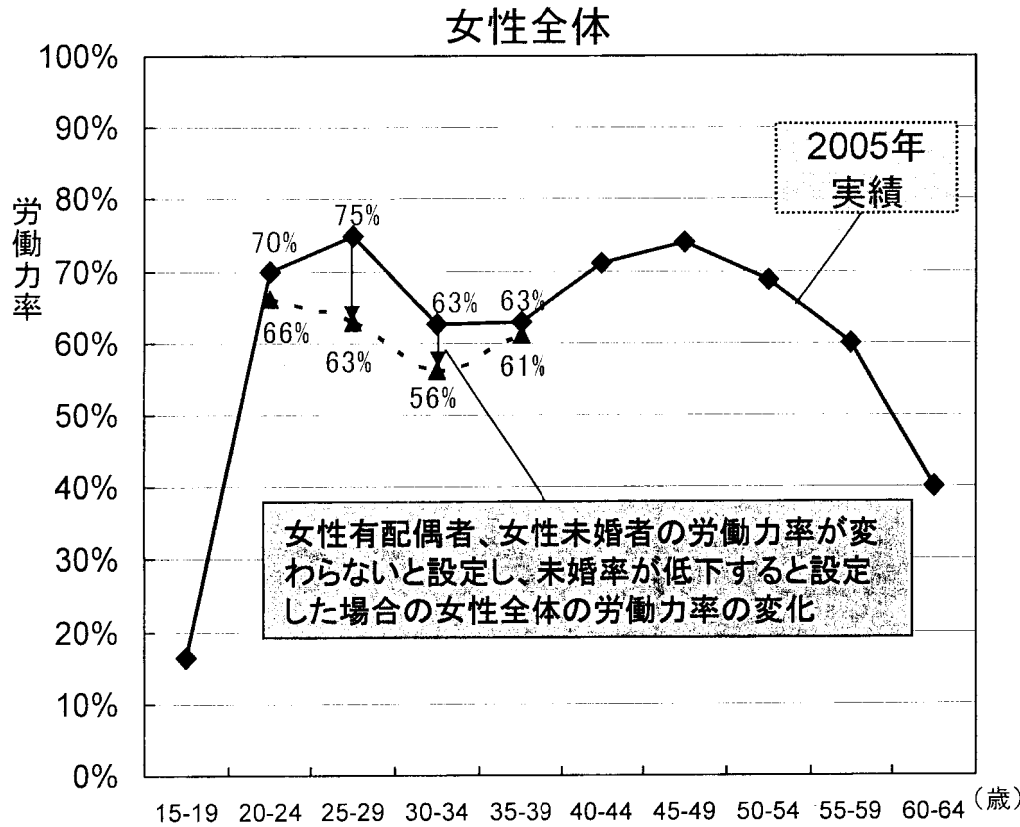


# 未婚率が低下した場合の女性の労働力率の変化－2



(資料)2005年は総務省「労働力調査」

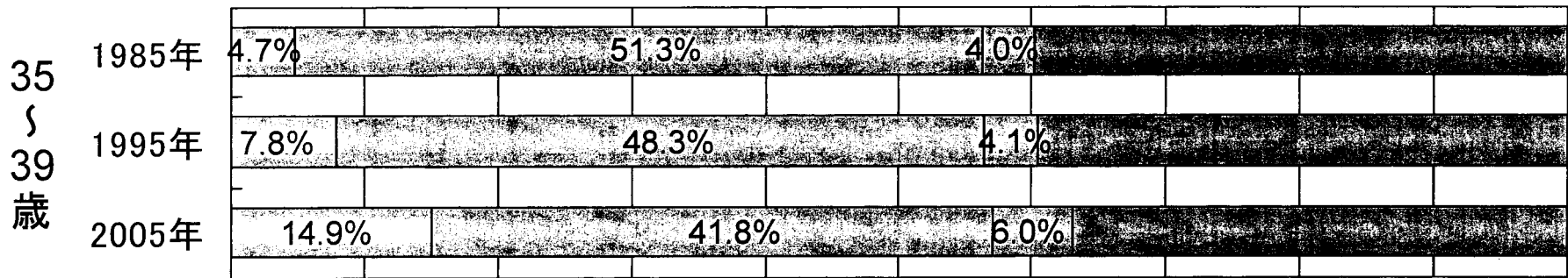
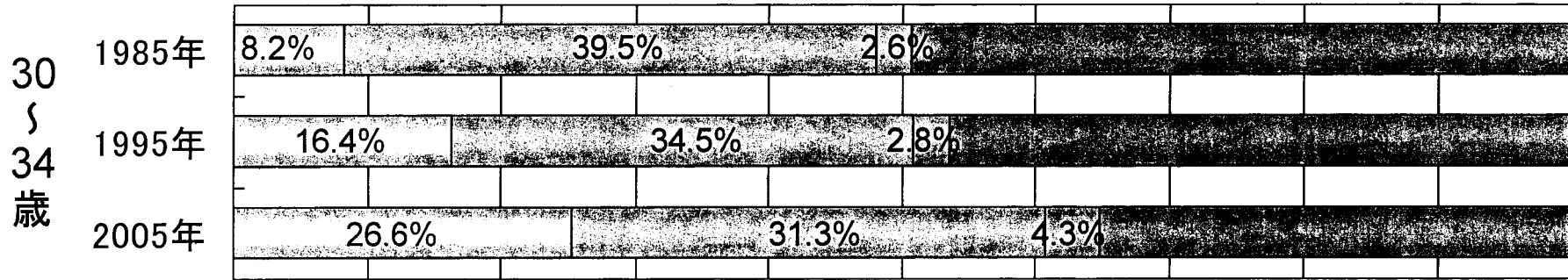
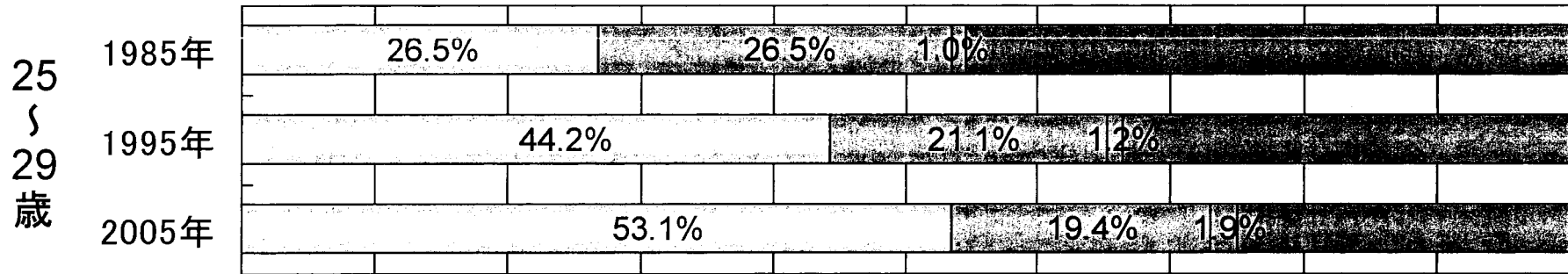
## 前提とした女性の年齢階級別未婚率の低下

※ 平成17年労働力調査より算出された年齢階級別未婚率が、生涯未婚率が10%程度と見込まれる1960年生が当該年齢階級のときの水準まで低下するものと仮定。

	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳
未婚率の低下	89%→76%	58%→30%	30%→15%	17%→11%	11%→10%

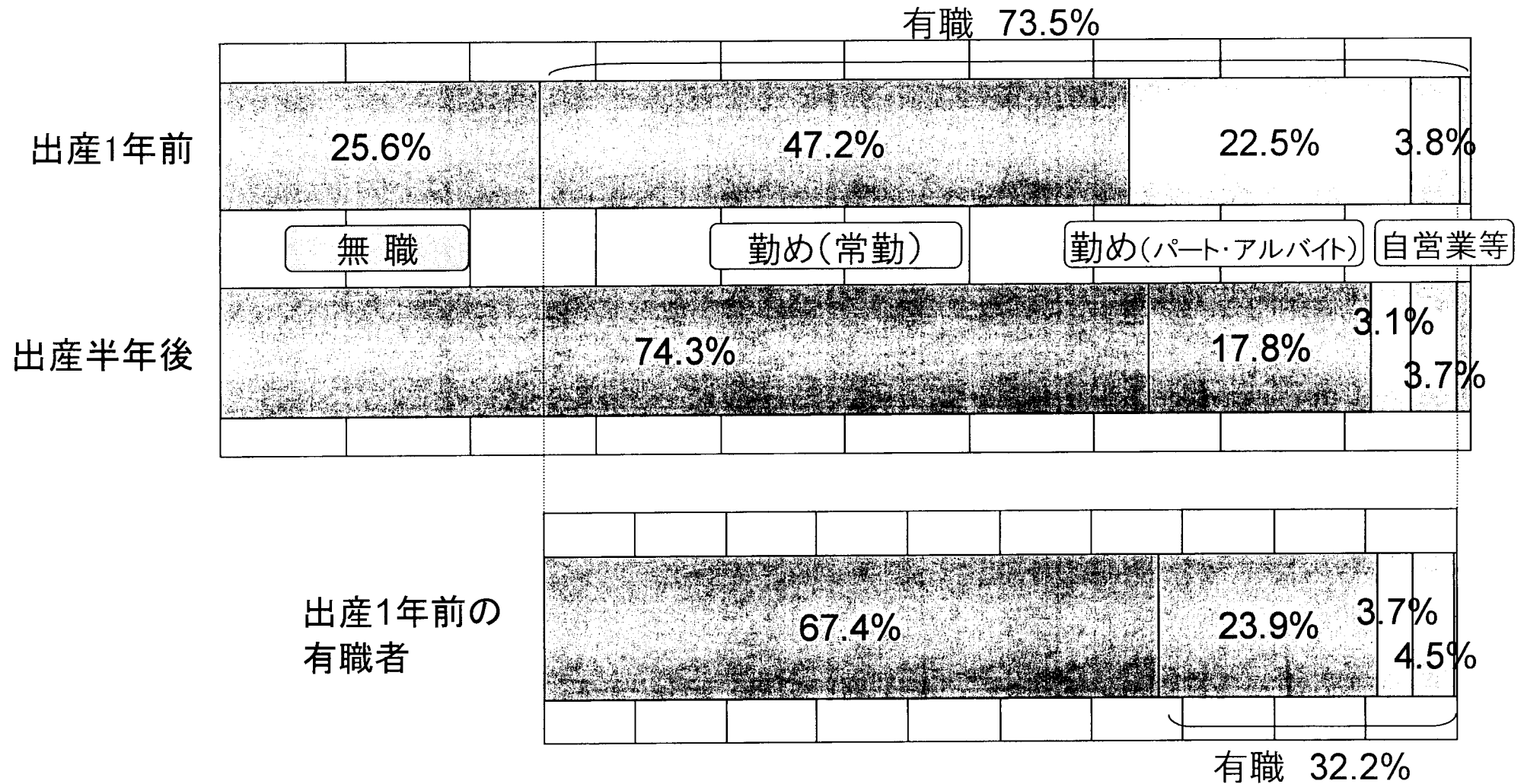
# 女子の労働力率の推移(配偶関係別に見た内訳)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



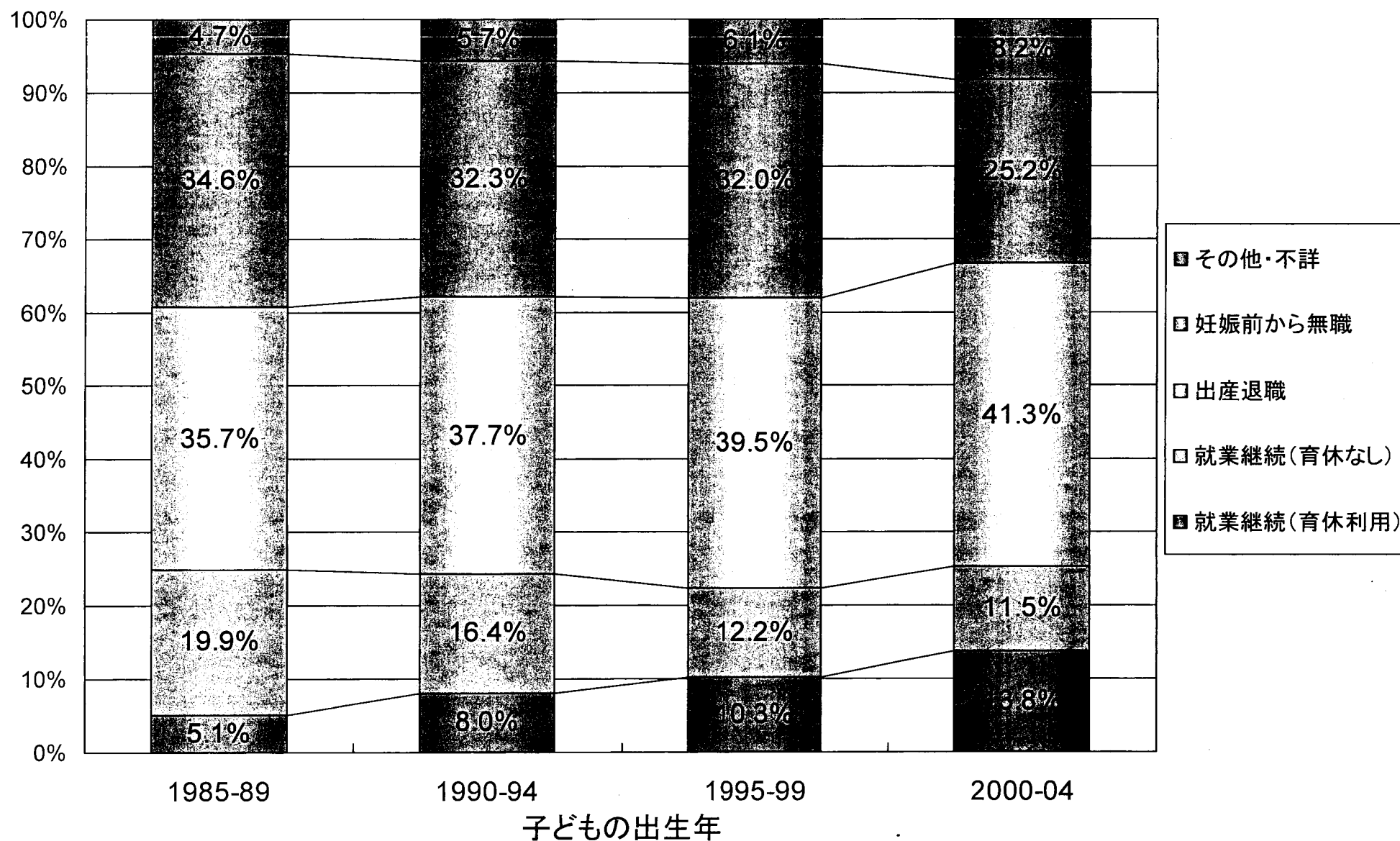
□ 労働力人口(未婚) □ 労働力人口(有配偶) □ 労働力人口(離死別) ■ 非労働力人口

# 第1子出産前後の女性の就業状況の変化



(資料)厚生労働省「第1回21世紀出生児縦断調査結果」(平成14年)

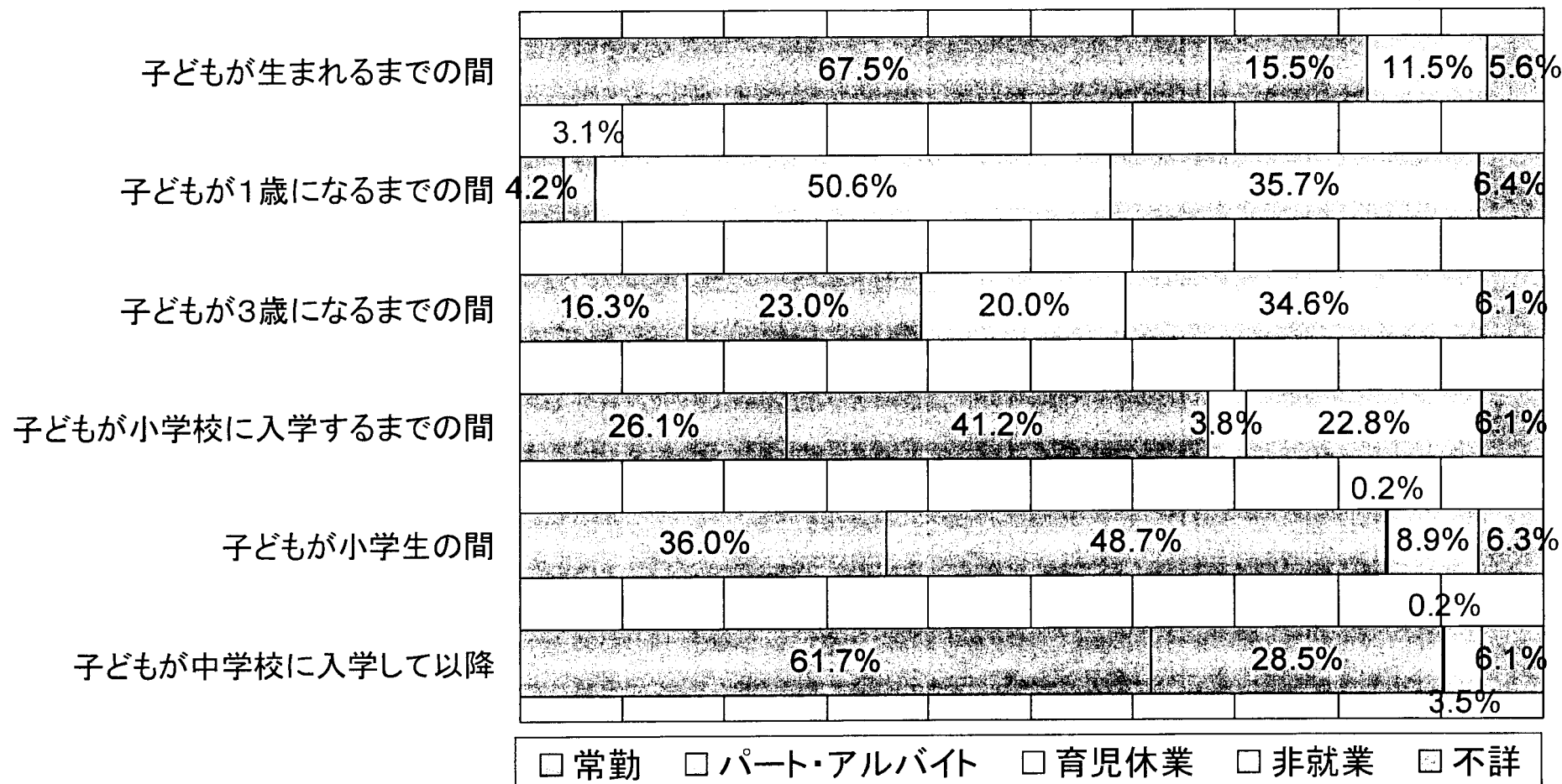
# 子どもの出生年別、第1子出産前後の妻の就業経歴



(資料)国立社会保障・人口問題研究所「第13回出生動向基本調査(夫婦調査)」17

# 女性の希望する就業形態(子どもが生まれる前～子どもが中学校に入学して以降)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



※ 今後子どもが欲しいと考えている女性に子どもの年齢による就業形態を調査

(資料)厚生労働省「社会保障を支える世代に関する実態調査(平成16年)」より